

✿ いつのまにか 時が過ぎ

私が最初に奈良文化財研究所に赴任したのは1996年春、前任地は京都でした。新任地への不安と期待との緊張感の中で、新任挨拶等を考えていたことが今となっては懐かしく思います。あれから20年が過ぎ、西大寺駅周辺の風景も大きく変わりました。そして平城宮跡も。奈文研での仕事は、まず、「何もわからない」「何もできない」から始まりました。それまで文教施設の整備に関わって約20年、建設工事のことを少しは分かっているつもりでしたが、そんな自信は跡形も無く消えてしまいました。まず部材の名前がわからない、意味がわからない、調べようにもその方法すらわからない。図面も描けない、積算もできない、現場監理など出来ようはずもない。そんなとき手を差し伸べてくれたのは先輩職員であり、研究員であり、設計委託者、施工者の人たちでした。そのおかげでそれから「尋ねること」「知ること」「みること」「経験すること」を繰り返す日々が始まりました。時は、朱雀門、東院庭園復原整備のまっただ中でした。そして復原整備が完了する頃には、もはや木造建築特有の魅力にとらわれていました。過ぎた時の中で、巡り会えた人たち、支え導いてくれた人たちへの感謝、そんな自分を包んでくれた平城宮跡に感謝を込めて。老兵は今しばらく平城宮跡で恩返しの時を過ごします。 (研究支援課長 今西 康益)



今西課長・小野副所長・難波センター長(左から)